

# ゆらゆら椅子

教科・場面

運動

授業・実践のねらい

左右に傾く感覚を感じながら体を動かす。  
友達と一緒に活動を楽しむ。

対象の児童・生徒

高等部 A 班フェニックスの生徒6名  
重度重複スコア 要求表出・人間関係  
共にⅡ～Ⅳ程度

- ・楽しい、心地よい時など、笑顔や発声、自発的な動きで表出することができる。
- ・友達の活動をみることができる。または、教員の言葉を聞いて待つことができる。
- ・姿勢によっては、自発的に体を動かしたり、動かそうとすることがある。

教材・教具



3点セット

- ① ゆらゆら椅子
- ② エアレックス  
マット
- ③ キャンディー  
ボール

工夫したところ

生徒の体に合わせて、姿勢保持の方法を工夫し、より全身で傾きを感じられるようにした。

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

- ① ゆらゆら椅子で左右に傾く感覚運動を体験する  
教員が体験する（見本+支援へ活かすため）⇒ 個々に応じた乗り方を一緒に考える
- ② ゆらゆら椅子に慣れる  
生徒が楽しいと感じる方法で繰り返し取り組む。（角度や声掛け）⇒ 「もう一度乗ってみたい」
- ③ 乗り方や体の動きを覚える  
生徒の動きが出るよう姿勢保持の方法を工夫する。（足を置く台、キャンディーボール）  
⇒ フロアに足を必ずつける。（必要であれば台を置く。）できるだけ接地面を増やす。
- ④ みんなで乗る  
BGM を流して雰囲気を出し、楽しさを感じられるようにする。⇒ 笑顔が増える、声とダイナミックな動きがでる。

授業・実践を通じた児童生徒の変容

ゆらゆら椅子を実践する前に、授業では『色々な姿勢をとろう』を導入した。（ゆらゆらベッドやFB を使用しての仰臥位、腹臥位、座位姿勢など。）初めは身体に力が入り、表情のかたい生徒が多かったが、回数を重ねるごとに、左右に傾く感覚にも慣れ、友達と一緒にノリノリの曲で体操している感じが“楽しい”になり、それが笑顔や、発声、積極的な動きに沢山表出として見受けられた。